

## 一般内科

### 【診療内容と現状】

Common disease(ありふれた疾患)や、どのような臓器別診療科を受診してよいのか分からない患者さんを中心とした内科一般診療を行っています。必要に応じて専門診療科に協力を得ながら対応したり、当院での対応が困難な場合は他院へ紹介したりしています。

### 【スタッフ】

坂田 典史:診療部長兼地域医療部訪問看護室長  
医学博士

永野 久俊:内科長

日本内科学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本医師会認定産業医

### 【臨床業務内訳】

坂田医師は緩和ケアの患者と以前から担当していた患者を主に担当し、永野は Common disease や、他の診療科に該当しない主訴の患者を主に担当しています。

高齢者の入院が多いため、幾つもの合併症を持った患者も多く、クリティカルパスが適応しにくい症例がほとんどです。厳しい社会情勢を反映して、社会的に問題のある患者さんが年々増加している傾向にあります。心理社会的アプローチが必要な患者もいますが、他患との関係で時間の制約が多く、十分に対応ができていません。

外来は坂田医師が週3コマ(月・火・木曜)、永野が週3コマ(月・木・金曜)担当しています。

### 【今後の課題・展望】

全人的アプローチによる診療活動を引き続き目指していきたいと考えております。EBM(根拠に基づいた医療)とNBM(物語と対話に基づいた医療)の実践に努め、医療水準の向上を図っていきます。

診療体制が毎年変更し、その度に周囲から求められるものが変わってきますが、その都度対応していきたいと存じます。

## 呼吸器内科

【診療内容と現状】

平成 27 年度、呼吸器内科は非常勤医師 1 名で外来が行われていました。平成 28 年 1 月より常勤医師が 1 名加わり、同月より常勤医師 1 名、非常勤医師 1 名の 2 名体制となっています。

平成 28 年度は 2 名体制を継続し、月一金曜日まで毎日外来を行えるようになりました。緊急入院にも対応し、肺炎などの感染症治療のほか、急性呼吸不全の人工呼吸管理、肺癌の化学療法なども行っています。しかし肺癌に関しては、CT ガイド下肺生検などの特殊な診断技術や定位放射線治療や手術を要する症例に関しては熊本市内の関連施設との連携をとっている状態です。

【スタッフ】

宮川比佐子(月・火・木)  
(常勤医師)

医学博士  
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医  
インфекションコントロールドクター

後藤英介(水・金)  
(非常勤医師)

医学博士  
日本内科学会認定内科医  
日本アレルギー学会専門医  
日本呼吸器学会専門医・指導医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医  
インфекションコントロールドクター

【臨床業務内訳】

外来患者数は年間 2070 名で、外来患者の内訳(図1)としては肺癌が最も多く 356 名(17.2%)で、次に多かったのは、気管支喘息 276 名(13.3%)でした。その次が検診や開業医からの精査依頼として受診される胸部異常陰影で 242 名(11.7%)でした。ただし、胸部異常陰影として紹介された中で、肺癌などの確定診断がついたものは除外しています(確定診断名の疾患に含まれているため)。

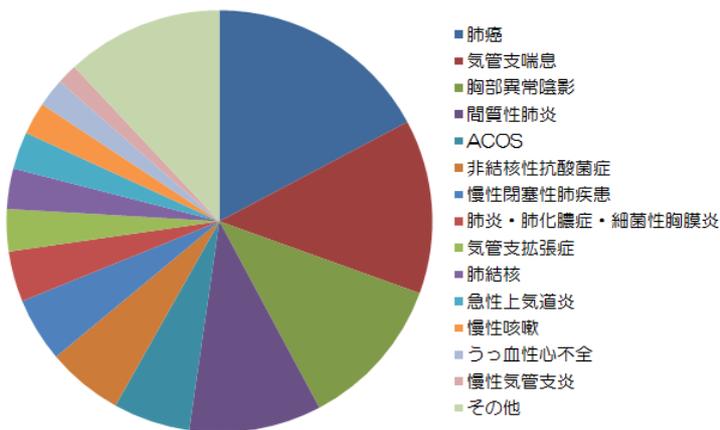


図1 外来患者 疾患内訳

入院患者数に関しては、平成 28 年度は 127 名で、呼吸器関連疾患が 98 名 (77%)、その他の疾患が 29 名 (23%) でした。疾患内訳を図2に示しますが、誤嚥性肺炎などの肺炎が 45 名 (35%) と一番多く、気胸 11 名 (8.7%)、肺癌 10 名 (7.9%)、膿胸・細菌性胸膜炎 6 名 (4.7%) と続きました。呼吸器疾患以外の入院では急性心不全・うっ血性心不全急性増悪が 15 名 (11.8%) となっていました。

気管支鏡検査は 24 例で、対象疾患は肺癌がもっとも多く 16 例、次に結核が 2 例でした。1 例ずつではありましたが、気管支腫瘍(過誤腫)、悪性リンパ腫も経験しました。

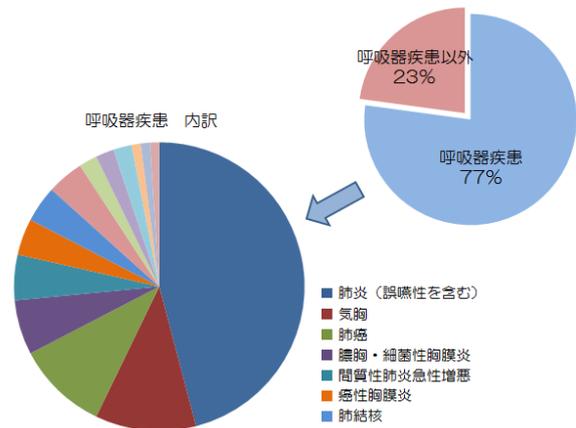


図2 入院患者 疾患内訳

**【今後の課題・検討】**

先述した特殊な診断技術や定位放射線治療や手術を要する症例に関しては熊本市内の関連施設との連携が必要な状態ですが、人工呼吸管理や気胸・胸膜炎の際のドレナージなどは緊急時にもできるだけ対応していきたいと考えています。

また肺癌に関しては経気管支肺生検などによる確定診断、EGFR 遺伝子検索などを行い、熊本市内まで行かなくても検査・治療ができる環境を更に整えていく予定です。

## 消 化 器 内 科

### 【診療内容】

消化器疾患全般、上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、超音波内視鏡検査、悪性腫瘍に対する内視鏡的治療全般、化学療法、緩和ケア

### 【スタッフ】

堤 英治 役職:消化器内科長、化学療法室長

所属学会:日本消化器内視鏡学会(専門医)、日本消化器病学会(専門医)、  
日本内科学会(認定医)、日本胆道学会

本原利彦 役職:診療部内視鏡室長

所属学会:日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会(専門医)、  
日本内科学会(認定医)、日本肝臓学会(専門医)

柚留木秀人 役職:研究研修部研究研修室長

所属学会:日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会  
日本内科学会

### 【臨床業務内訳】

内視鏡件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
上部消化管内視鏡検査	2,502	3,144(EUS189)	3,388(EUS169)
下部消化管内視鏡検査	896	1,194	1,333
上部 EMR、ESD	7	25	22
下部 EMR、ESD	168	196	244
ERCP*	24	112	154

\*内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査

### 【現状と課題】

平成 27 年度より消化器内科医が常勤となった後、平成 28 年度も内視鏡検査件数や治療件数も順調に増加しておりますが、上部の ESD のみが僅かながら減少しています。早期胃癌の症例数が減少してきていることを考えると、上部の ESD 件数が減ってくることはある程度は想定範囲内と考えております。平成 29 年度は医師の退職などにより内視鏡の検査件数自体が減っていく可能性が考えられますが、現時点で治療内視鏡の減少傾向は認められていません。しかし新規の患者に対する内視鏡件数が増えていかないと治療件数も減少してくることが考えられるため、そのような患者さんを増やしていくことが課題と思われれます。

## 循環器内科

### 【診療内容と現状】

当科では平成 22 年度より、毎日外来診療を行っています。

### 【診療実績】

平成 28 年度の当科入院総数は 250 名、なお前年度は 168 名でした。

平成 28 年度の心臓カテーテル検査は 54 件、心臓カテーテル治療件数は 12 件、なお前年度はそれぞれ 18 件、7 件でした。

平成 28 年度の恒久的ペースメーカー植込は 1 件、下大静脈フィルター留置は 1 件でした。

### 【スタッフ】

大庭 圭介:常勤医師(循環器内科長)

名幸 久仁:常勤医師(循環器内科医 兼 医療技術部臨床工学科長)

海北 幸一(木):非常勤医師(熊本大学医学部附属病院)

### 【臨床業務】

外来では、狭心症や心筋梗塞、弁膜症や心筋症、不整脈や心不全など、心血管疾患全般の診療を行っています。

紹介は予約無しでも随時受付しておりますが、前日までに紹介状を FAX 等で頂いた方が、待ち時間が短縮されます。心疾患という性質上、緊急性や重症度が高いケースを優先的に対応しております。

体制上の理由により、現在火曜日の心エコーは行っておりません。四肢血管エコーは行っておりませんが、頸動脈エコーは午後可能です。また外来冠動脈 CT を行っております。

重症度が高い場合は、心臓血管外科もあるような熊本市内の高次医療機関へ紹介し、救急車要請、時にはドクターヘリでの緊急搬送まで対応しております。

院内連携としては、整形外科、外科、泌尿器科、産婦人科等の、術前心疾患チェック等も行っていきます。

### 【今後の課題・展望】

平成 22 年の開設以来 6 年間、常勤医 1 名体制でしたが、平成 28 年 4 月から念願の 2 名体制となりました。これにより入院患者数やカテーテル件数等が軒並み増加しております。恒久的ペースメーカー植込術も可能となりました。

より重症度や緊急性が高い患者様を受け入れていくことが、今後の課題・展望です。

## 代謝内科

### 【診療内容】

当科では糖尿病を中心に、脂質異常症、高尿酸血症などの代謝性疾患、また甲状腺、下垂体、副腎疾患などの内分泌疾患の検査・診療を行っています。内分泌疾患では精査・加療を要する症例は、必要に応じて大学病院への御紹介も行っております。

### 【外来診療】

常勤の児島医師が月曜、水曜、金曜日に週3回の外来診療を担当しています。また、木曜日には糖尿病対策チームによる糖尿病合併症専門外来を行っております。特に、入退院を繰り返すような重症糖尿病患者や糖尿病足病変がありフットケアが必要な患者を対象としています。

### 【入院診療】

通常の入院治療を要する糖尿病患者以外に、2週間もしくは3週間の血糖コントロール・糖尿病教育・糖尿病合併症評価目的の入院診療も行っています。開業医の先生方からの御紹介も随時承りますので、御紹介下さいませ。また、他の代謝・内分泌疾患の入院診療も行っております。

### 【他科との連携】

当科の患者において眼病変や皮膚・筋骨系合併症を有する患者、悪性疾患を合併している患者、その他専門的加療を要する患者など、外来・入院を問わず他科と連携を取り、全人的な医療を提供することを心がけています。手術を要する他科入院中の患者で糖尿病等を合併し、周術期の血糖管理を特に要する為当科へのコンサルトがあった場合は、外来または病棟で糖尿病に対する診療を行い、周術期の血糖値管理や助言を行っています。

### 【糖尿病対策チーム】

当院での糖尿病診療においては、医師以外に看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士からなる糖尿病対策チームによる総合的なアプローチを実践しています。お互い専門的な立場からの患者の診療、治療上の問題点などを提起し、治療方針を話し合い、情報を共有することでチーム医療を行っています。実際の糖尿病指導としては、代謝内科並びに他科入院中の患者で、糖尿病教育の必要のある方に個別に指導しています。

### 【チーム活動】

当院の患者や一般の方向けに、夏や秋の年に2回の糖尿病教室(血糖値改善セミナー)を開催しています。世界糖尿病デーや糖尿病週間における啓蒙活動にも力を入れています。日本糖尿病療養指導士(CDEJ)や熊本地域糖尿病療養指導士(CDE-Kumamoto)の資格の取得にも取り組んでいます。

### 【スタッフ】

児島 協 常勤医師(医学博士)  
所属学会: 日本内科学会 日本糖尿病学会

## 外科

### 【診療内容】

一般外科、消化管(胃・腸)外科、肝胆膵外科、腹腔鏡外科手術、血管造影下治療、がん局所凝固療法、がん化学療法、緩和ケア

### 【スタッフ】

#### 豊永 政和

役職:病院事業管理者(院長)

専門分野・資格:医学博士、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本人間ドック学会、日本乳がん検診学会、マンモグラフィ読影認定医

#### 別府 透

役職:副院長・医療技術部長・医療管理部長・医療安全管理室長

専門分野・資格:医学博士、FACS(Fellowship of American College of Surgeon)、日本外科学会(指導医、専門医)、日本消化器外科学会(評議員、指導医、専門医、消化器がん外科治療認定医)、日本肝胆膵外科学会(評議員、高度技能指導医、内視鏡外科プロジェクト副委員長、腹腔鏡肝切除プロジェクトWG委員長、大腸癌肝転移データベース委員会・委員、Scientific committee委員)、日本内視鏡外科学会(評議員、技術認定医)、日本肝臓学会(評議員、指導医、専門医)、日本消化器病学会(評議員、指導医、専門医)、日本臨床外科学会(評議員)、日本癌治療学会(代議員)、日本肝癌研究会(幹事)、日本消化器癌発生学会(評議員)、肝臓内視鏡外科研究会(常任世話人)、日本がん治療認定医機構(暫定教育医、がん治療認定医)、日本臨床腫瘍学会(暫定指導医)、

#### 宮村 俊一

役職:診療部外科長・医療技術部臨床検査科長

専門分野・資格:日本外科学会(専門医)、日本臨床外科学会、日本内視鏡外科学会、日本胸部外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器外科学会

#### 藏元 一崇

役職:医療技術部放射線科長(外科)

専門分野・資格:日本外科学会(専門医)、日本がん治療認定医機構(がん治療認定医)、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本胃癌学会、日本臨床外科学会、日本静脈経腸栄養学会、日本癌治療学会

#### 古閑 悠輝

役職:外科医長

専門分野・資格:日本外科学会(専門医)、日本がん治療認定医機構、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本胃癌学会、日本臨床外科学会、日本癌治療学会

### 【臨床業務内訳】

平成28年度のおもな疾患と手術術式

手術総数 249 例(腹腔鏡手術 81 例、悪性腫瘍手術 72 例)  
 胃がん:胃全摘・胃切除術 9 例  
 大腸がん:結腸切除・直腸切除 20 例  
 肝がん(原発性・転移性):肝切除 11 例、ラジオ波凝固療法 20 例  
 胆道がん:胆嚢悪性腫瘍手術 4 例  
 膵がん:膵体尾部切除 1 例  
 食道・胃静脈瘤:ハッサブ手術 1 例  
 小腸・大腸良性:11 例  
 腸閉塞手術:5 例  
 直腸脱:5 例  
 胆嚢結石・胆嚢ポリープ:胆嚢摘除術 62 例  
 単径・閉鎖孔ヘルニア:54 例  
 腹壁・臍ヘルニア:12 例  
 虫垂炎:虫垂切除術 18 例

血管造影下治療  
 肝動脈化学塞栓療法 31 例

### 【現状と今後の展望】

2016 年 4 月に熊本大学消化器外科学教室より 3 名の医師が赴任しました。その結果、従来の一般外科、消化管外科に加えて、肝胆膵領域の外科治療や肝癌・大腸癌肝転移の集学的治療が可能となりました。詳細は当院外科のホームページを是非、ご覧ください (<http://yamaga-medical-center.jp/practiceguidance/doctor/surgery.php>)。

当院は従来の日本外科学会関連施設、日本消化器外科学会修練施設に加えて、本年度から日本消化器病学会と日本肝臓学会の認定施設に指定されました。日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会の専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医の資格を有する常勤医による質の高い、最新の医療の提供が可能です。

山鹿地区には胆嚢結石や総胆管結石症が多く、消化器内科と協力して可能な限り内視鏡的治療や腹腔鏡下治療による根治を目指しています。胆嚢ポリープにも腹腔鏡下治療を行っています。悪性を否定できない症例には胆嚢全層摘除やリンパ節郭清を行っています。虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎などの際にも体の負担が少ない腹腔鏡下手術を第一選択にしています。

消化器癌による死亡数は全癌死亡数の半数を超えています。カンサーボードやカンファレンスを随時行いながら、最適な治療法を選択しています。胃がんや大腸がんなどの消化管がんでは、その進行度や全身状態に応じて内視鏡的治療、腹腔鏡下手術、開腹手術を行っています。進行例では化学療法、放射線療法、緩和医療を適宜選択することで、すべてのステージの患者様への対応が可能です。化学療法は、がん薬物療法専門医とがん化学療法認定ナースを中心に行なっています。特に大腸がん肝転移例では導入化学療法後に外科切除が可能になる場合があり、腫瘍内科医と相談しながらその機会を逃さないように厳密な経過観察を行なっています。本年度にすでに 3 例のコンバージョン症例(入院時切除不能⇒化学療法後に切除可能)を経験しました。

肝がんの治療では肝切除術、腹腔鏡・胸腔鏡下肝切除、ラジオ波凝固療法、肝動脈化学塞栓療法、化学療法を癌の進行度と肝予備能の両面を考慮して選択しており、そのすべてを当院で施

行可能です。胆道がん・膵がんに対しては、厳密な術前検査や審査腹腔鏡を行い、安全かつ根治的な切除を心がけています。切除不能症例には化学療法を中心とした集学的治療に取り組んでいます。本年度は、肝胆膵がんの根治手術 20 例、ラジオ波凝固療法 20 例、肝動脈化学塞栓療法 35 例をすでに行いました。全例が大きな合併症なく元気に退院されました。

当科は教育や学術活動にも力をいれています。2016 年の学会や論文発表業績を記載します。筆頭者のみをカウントしました。国内全国学会演題としては 12 演題でした。内訳は、日本外科学会 3 題(パネルディスカッション 1 題)、日本消化器外科学会 2 題(パネルディスカッション 1 題)、日本肝胆膵外科学会 2 題(国際ワークショップ 1 題、プロジェクト研究発表 1 題)、JDDW 2 題、日本臨床外科学会 2 題(パネルディスカッション 1 題)、日本内視鏡外科学会 1 題でした。国際学会演題としては IASGO 1 題(招請講演)を発表しました。論文としては、英文 5 編、和文 2 編を報告しました。内容に関しては、外科業績の項目を参照ください。

山鹿地区に加えて近隣の玉名、荒尾、菊池、和水、植木地域、さらには県南や阿蘇地域からも患者を受け入れています。このように、消化器全般の症例に対してガイドラインやエビデンスに基づいた医療を提供しています。日々の診療では患者様にとって良好な QOL が保てるように心がけ、さらには常に患者様やご家族と気持ちを共有できる医療を心がけていきます。

## 2016 年度 外科業績(筆頭者のみを記載)

### 学会

#### 第 116 回日本外科学会(2016.4)

1. 古閑悠輝. 外科的治療を要したイレウス症例の検討
2. 藏元一崇. 急性胆石性胆嚢炎に対して腹腔鏡下手術と開腹術を施行した症例の比較検討
3. 別府 透. 進行肝細胞癌に対する外科治療を主軸とした strategy—適応と長期予後(パネルディスカッション)

#### 第 28 回 日本肝胆膵外科学会(2016.6)

1. Beppu T. Utility of portal vein embolization followed by right-side hemihepatectomy for hepatocellular carcinoma: a multi-institutional study (International Workshop)
2. Beppu T. Long-term and perioperative outcomes of laparoscopic vs open liver resection for colorectal liver metastases using propensity score matching: a JSHPBS project study (Project Study)

#### 第 71 回 日本消化器外科学会(2016.7)

1. 古閑悠輝. 超高齢者大腸癌手術における安全性の検討
2. Beppu T. Induction of RFA and endoscopic hepatectomy to the treatment strategy for small HCC (Panel discussion)

#### IASGO (International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists) World Congress 2016(2016.9)

1. Beppu T. Laparoscopic versus Open Liver Resection for Liver Tumor: A Multi-institutional Japanese Study (Invited lecture)

#### 第 35 回 Microwave Surgery 研究会(2016.9)

1. 藏元一崇. 肝細胞癌局所凝固療法後 Intrahepatic dissemination 再発の治療成績

#### 第 182 回 熊本外科集談会(2016.10)

1. 古閑悠輝. 肝動脈化学塞栓療法と門脈結紮術で臨床的 CR となった進行肝細胞癌の経験

第 24 回 日本消化器関連学会週間(JDDW 2016) (2016.11)

1. 古閑悠輝. 傾向スコアマッチングを用いた大腸癌手術の検討(開腹 vs 腹腔鏡)
2. 藏元一崇. 上部消化管癌性閉塞に対するステント留置の検討

第 78 回 日本臨床外科学会 (2016.11)

1. 古閑悠輝. 多発大腸癌肝転移は導入化学療法後肝切除の良い適応である
2. 別府 透. 大腸癌肝転移の Conversion Therapy - up to date(パネルディスカッション)

第 29 会 日本内視鏡外科学会 (2016.12)

1. 藏元一崇. 経皮的内視鏡胃瘻造設困難例に対して単孔式腹腔鏡補助下内視鏡的胃瘻造設術を施行した 1 例

### 講演

1. 別府 透. 特別講演:山鹿市民医療センターで可能な肝胆膵癌の集学的治療. 第1回 県北オンコロジー研究会(2016.7)
2. 別府 透. 特別講演:進化する肝がん治療 2016. 第 3 回日本臨床外科学会 愛媛県支部例会(2016.8)
3. 別府 透. 教育講演:進化する肝がん診療 2016. 有明地域がん治療研究会(2016.8)
4. 別府 透. 特別講演:『症例に学ぶ』肝がん治療. 森都病院 第 12 回がんセミナー(2016.12)
5. 藏元一崇. 講演:大腸がんの予防と生活習慣. 第 1 回 山鹿市民公開講座(2017.1)
6. 別府 透. 講演:あきらめない進行大腸がんの治療—肝転移例を中心に. 第 1 回 山鹿市民公開講座(2017.1)
7. 別府 透. 特別講演:根治を目指した大腸癌肝転移の集学的治療. 消化器癌 conference in 山鹿(2017.3)

### 論文

1. Beppu T. Portal vein embolization followed by right-side hemihepatectomy for hepatocellular carcinoma patients: A Japanese multi-institutional Study. J Am Coll Surg. 2016; 222: 1138-1148.
2. Beppu T. Anterior approach for right hepatectomy with hanging maneuver for hepatocellular carcinoma: A multi-Institutional propensity score-matching study. J Hepatobiliary Pancreat Sci. (in press)
3. Beppu T. Comparison of laparoscopic versus open liver resection for colorectal liver metastases using propensity score matching. Ann Laparosc Endosc Surg. 2017; 1: 50.
4. Koga Y. Comparison of laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma using propensity score matching. Ann Laparosc Endosc Surg. (in press)
5. Beppu T. The number of positive tumor marker status is beneficial for the selection of therapeutic modalities in patients with hepatocellular carcinoma. J Clin Transl Hepatol. (in press)
6. 別府 透. JSGS71 パネルディスカッション 4 大腸癌肝転移に対する集学的治療—新たなエビデンスの創出をめざして。日本消化器外科学会雑誌 (印刷中)

7. 別府 透. 肝転移に対する Perioperative / Conversion 戦略を再考する。大腸がん perspective (印刷中)

## 小児科

### 【診療内容と現状】

当科では、週3回(月曜、水曜、木曜日)午前9時から午後4時30分までの、外来診療を行っております。毎週水曜日の午後1時30分から3時30分までは、予防接種を行っております。

予防接種は、生後2カ月から2~4種類を接種する必要があり、その後も約1カ月毎に接種していくため、体調に合わせて個別にスケジュール調整が必要になります。安心、安全に予防接種が行えるように環境を整えています。予防接種前には、発育、発達で心配なことはないか、お母様の子育てが楽しく安心してできているかなども合わせてお聞きして診察するよう心掛けています。定期接種とともに、任意接種の予防接種も取り扱っており、希望者に接種しております。予防接種の対象は、山鹿市、熊本市、和水町在住の方です。その他、里帰り出産などで、他の県の方でも市町村からの委託があれば接種できます。

一般外来の他、新生児回診、退院後1週間後健診、1カ月健診を行っており、希望者には4カ月、7カ月、10カ月、1歳、1歳半、2歳健診を行っております。

院内での帝王切開や異常分娩の時には、出産に立ち会い、安全な新生児管理を目指しています。また、病棟の助産師と協力して、「赤ちゃんにやさしい病院」を目指し母乳育児支援を行っております。今年度の当院での正常新生児出産数は49人、退院時母乳率は90%、1カ月健診での完全母乳率は78%、混合栄養は22%、人工栄養のみの方は0%で昨年度と比較して母乳育児率が増加していました。

母乳は生後6カ月までパーフェクトな栄養であり、赤ちゃんを病気から守ってくれます。お母さんを信頼し安定した精神状態となり、知能も高くなります。母乳育児は、乳幼児突然死症候群を予防し、赤ちゃんの将来の肥満や糖尿病予防にもなっています。お母さんにとっても、育児が楽しく、楽にできるだけでなく、経済的で、災害時には赤ちゃんの命を守ることができます。お母さんの乳がん、卵巣がん、子宮体がん、産後うつ、骨粗鬆症にかかる確率も低くしてくれることもわかってきました。

出産前のご両親に、赤ちゃんを母乳で育てる利点を教えるだけでなく、赤ちゃんの泣く意味と一緒に考え、授乳の仕方や抱き方なども含めて、退院後ご家族が安心して楽しく育児ができるよう継続的に支援しております。

現在非常勤医1名のため、入院管理はできない状況であり、患者様には大変ご迷惑をおかけしており、申し訳ありません。入院や専門的な医療が必要な場合には、専門の病院に紹介させていただいております。

### 【スタッフ】

石井 真美  
 日本小児科学会(専門医)  
 IBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)  
 日本新生児成育医学会  
 日本周産期新生児医学会  
 日本母乳の会

### 【今後の展望】

すべての親子が幸せに安心して育児ができるよう、これからも頑張ります。

## 産婦人科（女性外来）

### 【診療内容と現状】

当院の産婦人科は、平成 21 年 5 月から女性外来として非常勤医師による外来診療を開始して以来、平成 23 年 4 月から常勤医師 2 名の赴任により連日の外来診療となり、同年 7 月に手術を、8 月に分娩を開始して今日まで総計で 440 名以上の分娩を手掛けて参りました。25 年度迄 100 例ペースの分娩数でした。しかしながら、経営方式の変更に伴う 5 階病棟運用のあおりを受けましてやや低迷し平成 27 年度の分娩数は 73 例でした。月間 6 例のペースです。平成 28 年度は 54 例と減少いたしました。主な原因にはスタッフの減少があり、地域周産期センターの重責を担うには人的に不十分な環境です。従いまして重症新生児、未熟児の出産に際しては、主に大学病院、熊本市市民病院、福田病院と連携して新生児搬送、母体搬送のやむなきに至る例は昨年度もなくなりませんでした。

助産師さんは、結婚・出産・開業などめでたいことではありますが、平成 29 年 4 月現在でさらに減少し実働 3 名に至りました。過労気味です。やむを得ず、平成 28 年度から分娩数を制限しています。婦人科は 2 階病棟スタッフも大分慣れてこられました。まだ問題山積です。しかし、集学的治療を要する例を除いて平成 28 年度も卵巣腫瘍、子宮腫瘍、臓器脱、子宮内膜症、不妊症まで対応してきました。

### 【スタッフ】

○福島 泰斗(医学博士) 副院長

平成 28 年度末にて副院長を一旦定年退職しましたが、平成 29 年度以降も引き続き産婦人科業務を奉職しています。

所属学会(専門医等): 日本産婦人科学会専門医、熊本大学医学部附属病院群臨床指導医、母体保護指定医、日本周産期新生児学会蘇生法認定医、日本癌治療学会会員

○井上 弘一(医学博士) 産婦人科長

開設当初から科長として医療職を担ってまいりましたが、本年度末3月 31 日をもって本院を退職なさいました。

所属学会(専門医等): 日本産婦人科学会専門医、日本周産期新生児学会蘇生法認定医

○値賀 正彦(医学博士) 新産婦人科長

平成 29 年度 4 月 1 日から熊本大学医学部附属病院より当院に就任なさいます。

所属学会(専門医等): 日本産婦人科学会専門医、日本周産期新生児学会蘇生法認定医

○片渕 美和子 非常勤医師(女性外来 毎週火・木曜日の午後)

所属学会(専門医等): 日本産婦人科学会専門医、日本思春期学会、日本更年期学会、日本性感染症学会

### 【臨床業務内容】

平成 28 年度の総分娩数は 3 月末日で 54 例(内、中期中絶 0 例)内、帝王切開 15 例(ハイリスクに関しては、休日等緊急麻酔が難しい現状ですので予め選択的帝王切開あるいは母体搬送の方針にシフトしています。しかし予定帝王切開 8 例、緊急帝王切開 7 例となりました。帝切率 27%、総手術数は 51 例を数えます。その内、腹腔鏡手術は 12 例で腹腔鏡下子宮筋腫核手術 1 例、腹腔鏡下付属器摘手術 7 例、腹腔鏡下腔式子宮全摘術 3 例、腔式筋腫核手術 2 例、開腹下子宮

## 全摘術 10 例

臓器脱は重要な加療対象ですが当科では、膣式子宮全摘術＋前膣壁形成＋後膣壁形成術を採用しており平成 28 年度は 7 例追加しました。今迄の合計では 55 例になります。子宮全摘としては平成 28 年度 13 例を追加して 100 例の実績となります。他に膣式手術では、平成 28 年度 D&C6 例(中絶は 2 例に減りました。さらに良い傾向)です。

産婦人科 5 階病棟は、地域包括ケア＋緩和ケア導入に伴うスタッフ消耗の悪影響を受けました。それにもめげずに帝王切開は増加しております。スタッフの努力の成果です。

## 【今後の課題】

平成 28 年度の助産師外来はなんとか順調に運用されました。小児科につきましては、引き続き石井先生が週 3 回外来を診ていただいております、帝王切開時を含めてとても頼もしい存在です。次年度平成 29 年度は、新しく熊本大学医学部附属病院の産科病棟を仕切っておられました値賀正彦先生が大活躍されること、乞うご期待です。

## 麻 酔 科

### 【診療内容と現状】

1. 術中の安全管理を第一に、周術期の精神的、身体的ストレスの軽減、術後の疼痛軽減、早期回復を考慮して麻酔を行っています。
2. 術前患者の診察は、通常午後、手術室前室、記録室で行っています。簡単な診察のほか、予定している麻酔法、食事／飲水制限、当日の服用薬剤などを説明し、患者さんから質問や要望を伺ったあと、麻酔同意書に署名を頂きます。意思疎通が困難な方、あるいは未成年者の場合、ご家族から署名を頂いています。

### 【スタッフ】

1. 加納龍彦:常勤医(月～木)、麻酔科長[日本麻酔科学会指導医・専門医]
2. 原 将人:非常勤医(久留米大学病院麻酔科所属)(金)[日本麻酔科学会指導医・専門医]

### 【臨床業務内訳】

1. 手術予定:予定手術の第1例目は月～金の 08:45 入室し、09:15 執刀が目標です。緊急／準緊急手術も可能な限り柔軟に受入れています。
2. 麻酔法の選択、術前管理・術後疼痛対策:予定術式・所要時間、術中体位、術前既往歴・合併症などのほか、患者さん・執刀医の要望を参考に決定します。
3. 麻酔科管理症例数／手術症例数の年次推移

年度別	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28 (年)
全身麻酔	500	603	559	645	685	646	663	663
硬麻併用	22	18	104	140	174	121	139	140
脊麻/硬麻	113/22	25/16	102/0	142/31	95/33	102/0	54/0	62/0
<b>麻酔管理合計</b>	<b>635</b>	<b>644</b>	<b>661</b>	<b>818</b>	<b>813</b>	<b>748</b>	<b>717</b>	<b>725</b>
局所麻酔	167	224	242	192	253	264	276	383
<b>総症例数</b>	<b>802</b>	<b>868</b>	<b>903</b>	<b>1010</b>	<b>1066</b>	<b>1012</b>	<b>993</b>	<b>1108</b>

外科:肝腫瘍の切除術(11例)ラジオ波凝固(27例)がスタート、腹腔鏡手術(88例)が増加  
 整形外科:大腿骨骨折が年々増加(181例)、なかでも高齢者で女性(平均86歳、女性76%)  
 産婦人科:帝王切開(15例)

泌尿器科:経尿道的膀胱・前立腺手術(26例)

眼科:網膜黄斑変性/浮腫への硝子体内注射が増加(131例)

**【平成29年度の課題・展望】**

- ① 麻酔科医の2名体制化、② ERASの促進(術前経口水分摂取ORTの促進、手術侵襲の軽減化、手術時間の短縮、術後の適切な疼痛管理)、③ 更なる安全確認・確保(血小板機能抑制薬/抗凝固薬の術前休薬確認、執刀前タイムアウト、異物体内居残防止対策など)

## 外 来 化 学 療 法

### 【平成 28 年度総括】

当院では、平成 18 年 2 月から外来化学療法室を開設し、現在 8 床で稼動しています。毎週火曜と水曜(木曜日は予備日)に専門のスタッフによる化学療法を施行しています。また、治療の適正性の審査・レジメン審査・管理、病棟化学療法に対する指導などを一括して行い、病院全体で質の高いがん診療が行われるように活動を続けています。平成 24 年 11 月に県指定のがん診療連携拠点病院の指定も受け、他施設からの紹介も増えてきています。また、4 月から熊本大学より別府医師が赴任され、5 月から熊本大学より腫瘍内科の陶山医師を非常勤医師としてお迎えし、診療科を超えて集学的治療を目指しています。治療の幅が広がる中、化学療法の知識・技術・看護ケアの向上にも努めています。

平成 28 年度 疾患別化学療法延べ人数

総数 671 人(前年度より +254 人)

\*外来 616 人 \*病棟 60 人

直腸・結腸癌	128 人	胆道系癌	13 人	食道癌	19 人
膵臓癌	152 人	胆のう癌	44 人	軟部肉腫	23 人
胃癌	42 人	胆管癌	37 人	リウマチ	12 人
乳癌	125 人	肺癌	56 人		

\* 登録レジメン数 111

### 【スタッフ】

医 師:堤 英治 (消化器病専門医)

薬剤師:柴田 佳代 (がん薬物療法認定薬剤師)、松田 光司

看護師:木村 まり (がん化学療法看護認定看護師)

竹田 由香里 (がん化学療法看護認定看護師)

### 【今後の課題・展望】

当院は県指定のがん診療連携拠点病院でもあり、今後も治療を受けられる患者さまは増加すると考えられます。平成 28 年度に引き続き、外科医師の交代や腫瘍内科医師(非常勤)が 1 日勤務になられるため体制を整え、また、がん患者さまの治療のサポートや QOL の向上に取り組むたいと考えています。がん化学療法は進歩しており、新しい治療や日々アップデートされるエビデンスに対応し、安全・確実・安心な治療の提供を心がけていきたいと思ひます。

## 乳 腺 外 来

### 【診療内容と現状】

毎週火曜日に乳腺外来を行っています。がん検診の結果精密検査が必要な方、乳がんの疑いのある方、乳がん治療が必要な方などを対象として診療を行っています。

日本では、乳がんにかかる女性は年々増加傾向にあり、女性の壮年層では死亡原因の1位となっています。

乳がんの患者様をチームでサポートする「ブレストケアチーム」は、医師・看護師・作業療法士・薬剤師などで構成され、身体のみならず精神的、社会的なケアも行っています。毎月チームカンファレンスを行うとともに患者会の開催、地域においては病院まつりや広報誌等で乳がん検診の啓発活動を行っております。

### 【スタッフ】

医師：藏元 一崇(外科)

末田 愛子(非常勤医師・熊本大学医学部附属病院)

薬剤師：柴田佳代

看護師：浦部幸 飯田りつ子 西口富士乃 廣松ひろ子

原沙織 木野佳代 島田絵美 豊福貴子 江藤千鶴

作業療法士：脇山美紀

### 【診療業務内訳】

◇ 平成 28 年度 乳腺外来受診者数

新規	191 名
再来	1236 名
総数	1427 名
乳癌患者実人数	192 名
癌告知	34 名
細胞診検査	35 名
病理組織検査	35 名
乳癌化学療法	125 名

### 【今後の展望】

乳癌の罹患率は増え続けており、欧米では低下しつつある乳癌での死亡率も、日本では依然として増加しています。乳癌の診療はますます進歩していくことが予想されています。乳腺外来では、今後も地域の患者様が安心して検査や治療を受けていただけるよう支援していきたいと考えています。

## 禁煙外来

### 【診療内容と現状】

当センター利用者の受動喫煙防止、公的医療機関としての禁煙対策、治療、教育目的に平成22年7月に開設し7年度目になります。

〈平成28年4月1日から平成29年3月31日まで〉

禁煙外来受診 25例

禁煙率 52%

### 【スタッフ】

坂田 和子(呼吸器内科医、医学博士)、名幸久仁(循環器内科医)

東 幸代(禁煙専任看護師)

### 【臨床業務内容】

診療は毎週月曜日すべて予約外来です。(担当坂田和子)

禁煙治療は5回、12週のプログラムで、禁煙補助薬として、内服薬(バレニクリン)と貼付薬(ニコチンパッチ)のいずれかを使用して行います。

受診時には患者様が記入された禁煙日誌を参考に患者様それぞれに応じたアドバイスをを行い禁煙を進めていきます。診察室には一酸化炭素ガス分析装置[マイクロモニター]を備え、診察時に治療効果の把握を行っております。

### 【今後の課題・展望】

禁煙外来7年度目、今年度より2診体制となりました。患者様の受診の機会が増えましたので、禁煙診療の充実につなげる所存です。現在のところ、昨年度実績から、患者数24→25名とわずかな増、禁煙率は62.5→52%という状況でした。

しかしながら、公的医療機関での禁煙外来は、啓蒙、教育的意義も大きく、引き続き診療を充実して参ります。

禁煙医療の重要性が社会に周知された現在、日常の診療に関わるすべての医療従事者の禁煙推進、意識向上の必要性を強く感じております。

## 睡眠時無呼吸外来

### 【診療内容と現状】

週 2 回(火、木)の予約診療です。

〈平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 3 月 31 日)の診療内訳〉

CPAP	107 例
ASV	2 例
終夜睡眠ポリグラフ簡易検査	36 例
終夜睡眠ポリグラフ精密検査	1 例
治療継続率	89.7%

### 【スタッフ】

坂田和子(呼吸器内科医、医学博士)

### 【臨床業務内訳】

検査は入院 終夜睡眠ポリグラフ(PSG)精密検査

(ソムノスクリーニングシステム、ソムノタッチ RESP)反復睡眠潜時検査(MSLT)

外来 簡易 PSG(LS120,LS100)

外来診察時に SAS データ専用ノートパソコンにて、通常診療で PSG 結果説明や CPAP データ取り込みを行っています。

現在、当科での CPAP フォローは S9 レスポンド、スリープメイト 9、

Jasmin、TRANSEND CPAP、DreamSter Auto Evolv、REMster Auto、Dream Station など解析ソフトを完備し各社各機種多岐にわたり行っております。

また、CPAP 患者様のニーズにこたえて、ナステント処方指示も可能になりました。(現在メーカーサイド流通中断中)

### 【今後の課題・展望】

当科では CPAP 症例多数の診断、加療をはじめ、ASV 症例、睡眠相後退症候群、ナルコレプシーなど、睡眠呼吸障害全般に渡っての対応を行っております。

睡眠医療の先進先端を担い、地域の睡眠医療の充実を計ることを第一義に診療しております。

当科の特徴は、CPAP フォロー例が多く、また継続率が極めて高い点です。

CPAP フォロー例が 100 例を超える現在、月末などに受診が偏る傾向も加わりますので、スムーズな予約外来を計るよう心掛けております。

## ス ト ー マ 外 来

### 【診療内容と現状】

当ストーマ外来は、平成8年よりストーマ増設されている患者様の、退院後の援助を目的として、診療を開始しました。ストーマケアは、中途傷害となられた患者様に精神的な援助を行い、ストーマを受容され、退院に向けて患者様、家族に安心して社会復帰をしていただき、入院前と変わらない生活を送っていただきたいと考え、ケアしています。外来は、通院している患者様のストーマの状態を見ながら、装具の選択、皮膚トラブルの対処法、必要なアクセサリーの説明などを行っています。又、病棟でのストーマ患者のコンサルトに応じ、術前の患者指導、マーキング、術後の装具選択などの指導や、年2回5月、11月に苺の会（ストーマ患者の集い）をテーマを決め行っています。

### 【スタッフ】

医師

蔵元 一崇 医療技術部放射線科長

日本外科学会(専門医)

がん治療認定医機構がん治療認定医

柴田薬剤師

ストーマケア外来責任者 吉里美智代

松本明美 宮園清子 米加田裕子

中原由美 姫井良奈 森山裕子

宮川 里美 古家茜 吉安真輝

### 【臨床業務内訳】

- ・毎月第3水曜日午後1時30分より開始  
延べ 2.1 名の受診あり
- ・ 苺の会は 5 月 13 名、11 月 10 名の参加がありました。
- ・毎月福岡で開催されているストーマ・ケアナース学習会には勤務の都合で毎月参加は出来ませんでした
- ・平成 28 年度よりストーマ・ケアナース学習会受講により、ストーマサイトマーキングの点数加算がとれるようになりました

### 【今後の課題・展望】

- ・広報やまがに原稿を投稿し地域に向けて広報活動を行い、ストーマ外来としての活動を充実させていく
- ・28 年度もストーマ・ケアナース学習会に出張で受講する
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師になれる看護師を育て、活動できる基盤を整えていく

## 緩和ケア外来

### 【診療内容と現状】

緩和(かんわ)ケアとは文字通り、症状を緩(ゆる)め、和(やわ)らげるために、お世話(ケア)をすることです。もともとは根治が難しい末期がんの患者様を対象に始まりました。けれども現在では、がん治療中の患者様でも早期から痛みを和らげることや、がん以外の病気の苦痛を和らげることも緩和ケアの役割と考えられるようになってきています。

また、患者様の精神的なサポートや、ご家族の心のケアを行っていくことも緩和ケアの重要な役割です。

平成 23 年 7 月より緩和ケア外来を開設し、入院患者のみならず、外来通院中の患者様やご家族などへの緩和ケアの提供を行っております。

### 【スタッフ】

医師:坂田 典史(内科:緩和ケア担当医)  
担当看護師:村上 美香(緩和ケア認定看護師)

### 【臨床業務内訳】

診療は、毎週金曜日の 14:00～16:00 までの予約制で行っております。

積極的治療後に、緩和ケアにギアチェンジされた患者様の転院依頼や、治療中の併診の依頼などがあります。希望や状態に応じての入院治療や、外来での症状コントロール、継続フォローを行っております。

H24 年4月に緩和ケア病棟が開設されたことにより、緩和ケア病棟への入院希望に関する面談や、緩和ケア病棟入院前・退院後の外来フォローも行っております。

また H25 年 4 月に開設された訪問看護室のスタッフと連携し、緩和ケア対象の患者様の在宅支援も行っております。

\*本年度の対象患者数は 220 名でした。

### 【今後の課題・展望】

1. 緩和ケア外来と緩和ケア病棟との連携
2. 緩和ケア外来と訪問看護室との連携
3. 地域の医療機関・福祉との連携

\*上記連携の充実を図り、切れ目のない緩和ケアを目指す

4. 診療に関わるスタッフの育成

## P E G 外 来

### 【診療内容と現状】

PEG を造設されている患者様が安心して日常生活を送れるよう、NST スタッフが PEG 管理者の方へ、管理方法・トラブル時の対応・栄養管理について説明を行っています。PEG 管理が確立され、トラブルは減少しています。

### 【スタッフ】

○医師

藏元 一崇

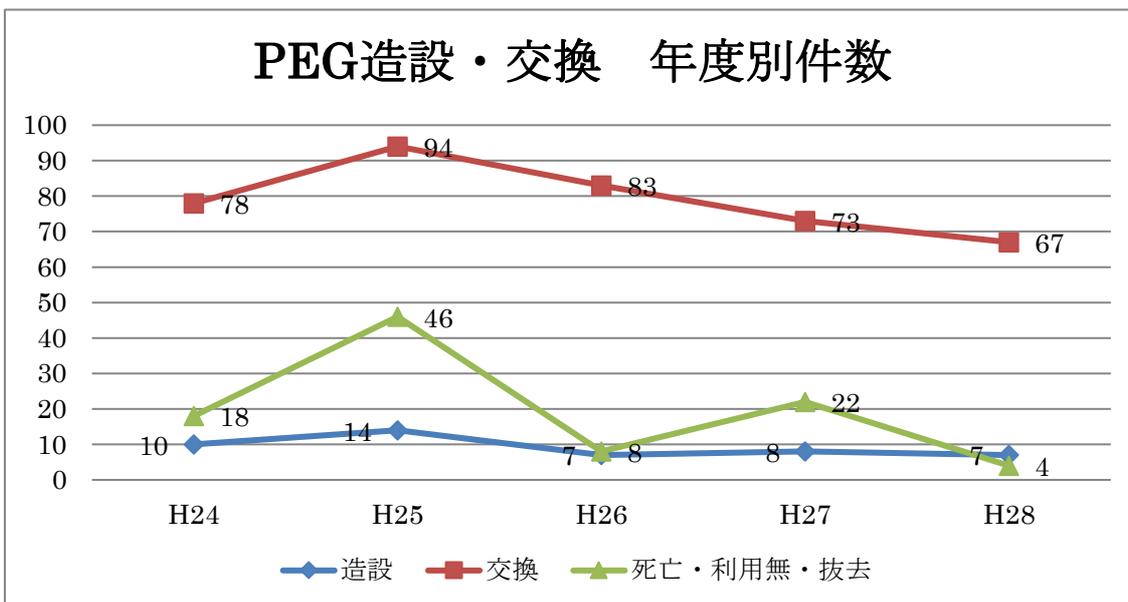
池上 克徳 大熊 利之 飯田 伸一(平成 28 年 6 月まで)

○PEG外来スタッフ

福山 留美 (責任者)、他 10 名

### 【臨床業務内訳】

診察は予約制で毎週水曜日 14 時から行い、7 月からは 14 時 30 分から行っています。本年度は、交換症例 67 例、造設症例 7 例でした。



### 【今後の課題・展望】

PEG 栄養管理における知識・技術を共有できるよう地域で連携し情報交換ができる環境を整えていきたいと考えています。特に、利用患者様の高齢化が進んでいるため、栄養についての情報交換ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。また、医師交代に伴い PEG 造設手順が変更になり、安全に造設ができるよう利用施設の方々へ周知徹底を図りたいと考えています。